



CIOを対象としたテクノロジーに関する調査：テクノロジーの優先事項2023年

テクノロジー革新の普及

景気後退の懸念にもかかわらずIT予算は増加しており、CIO（最高情報責任者）はビジネス運営を安定させるために、AI、自動化、およびアナリティクスを活用しています。

CIO

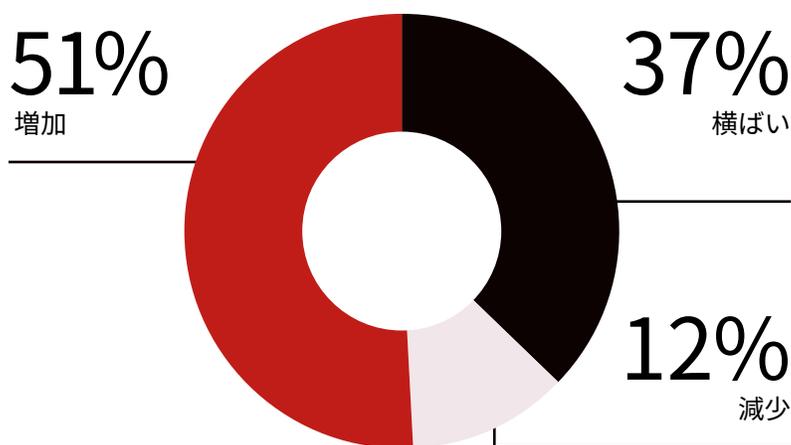
FOUNDRY
an IDG, Inc. company

ビジネス、経済、地政学など不確実性に満ちた状況下でも、IT組織は将来を楽観的に考えているようです。多くのITリーダーは、米国が景気後退に向かっているか、すでに後退していると考えている一方で、それが2023年の自社のIT支出を妨げるものではないと述べています。実際、Foundryの『CIOを対象としたテクノロジーに関する調査:テクノロジーの優先事項』、2023年では、調査した組織の半数以上でIT予算が増加しています。

ITリーダーは、業務効率の向上、サイバーセキュリティ、エンタープライズデジタルトランスフォーメーションを最優先事項として推進しています。この調査結果は、IDCのBlack Book Live Editionの予想結果と一致しており、2023年の米国のIT支出は1兆8,300億ドルに、世界全体では5兆1,400億ドルに達すると予想されています。

これらのIT意思決定者 (ITDM) は、IT予算を人工知能や機械学習、データ分析のフレームワーク、ワークフローの自動化などの革新的なテクノロジーに費やす予定です。しかし、依然として慢性的なスキル不足と人員不足に悩まされており、これらの新たな取り組みの障害となっています。こうした状況を踏まえて、ほとんどの組織が現行スタッフのスキルアップやリスキリングを計画しています。

予算の見通し



Foundryは、276名の幹部ITDMを対象に、ITリーダーが今後12か月間にどのテクノロジー分野に注力するかを調査しました。その結果、これらのカテゴリーにおける支出の方向性が浮き彫りになりました。

テクノロジー予算は引き続き増加

ITリーダーの半数以上(51%)が来年のIT予算を増やす計画で、1/3以上(37%)が予算を据え置く予定と答えています。IT予算の削減を計画しているのはわずか12%でした。

大多数の回答者は、米国が景気後退に直面すると確信しているにもかかわらず、支出を継続させています。ITリーダーの約77%は、2023年に景気後退に入るか、すでに入っていると考えています。

しかし、こうした景気後退の懸念は注意喚起につながり、IT組織は将来的に起こりうる経済的打撃を緩和するために必要な措置を講じてい

ます。ITリーダーの約77%は、経費削減のために複数ベンダーとの契約を一本化すると答えている一方で、64%は景気減速の影響を緩和すると期待されるテクノロジープロジェクトの取り組みを加速させると答えています。半数以上の企業は、重要なプロジェクトの作業を遅らせており、1/3以上

(39%)は予定されたプロジェクトを延期しています。計画した雇用を遅らせている企業は半数未満(47%)でした。

ITDMが支出を増やす予定の分野:

- サイバーセキュリティ (65%)
- BI/分析ツール (49%)
- データ分析のフレームワーク (46%)

77%

のITリーダーは、コスト削減のために複数ベンダーの契約を一本化していると回答している

ITリーダーは、効率の改善、セキュリティの強化、カスタマーエクスペリエンスの向上を実現するテクノロジーに投資します。実際、サイバーセキュリティは2023年における最も重要なテクノロジープロジェクトに位置づけられており、ITDMの65%はリアルタイムセキュリティ監視とフォレンジックへの投資を増やす予定です。また、ビジネスインテリジェンスと分析ツール(49%)、データ分析のフレームワーク(46%)、AIと機械学習(45%)などへの支出も増やす予定です。ほとんどのITDMは、これら5つの分野を積極的に調査したり試験的に導入しています。

注目の技術トップ5

1. AIと機械学習

新しいAIツールのChatGPTをめぐる熱狂や、Googleや中国インターネット大手の百度で計画されているAIに関する発表から、AIと機械学習への関心の高さがうかがえます。企業は、ビジネスプロセスや意思決定からソフトウェア開発、文章コンテンツ作成にいたるまで、あらゆるものを自動化するAIとMLテクノロジーへの関

心を一段と高めています。実際、回答者の1/3以上（39%）は、AI/MLが今後3～5年で、他のどのテクノロジーよりもビジネスの運営方法を変えると考えています。その結果として、調査対象組織の半数以上（57%）がAIとML技術の調査や試験導入を積極的に行っており、15%が事業部門や部門内で実稼働を開始しています。

2. データ分析のフレームワーク

ビジネスを破壊する可能性があるという点で、AIとMLを上回る影響を及ぼすと考えられるのがデータ分析です。ITDMの約43%は、データ分析が近い将来、ビジネスの運営方法を変えると予想しており、2023年にデータ分析のフレームワークに関する調査を実施しています。

データ分析のフレームワークは、大規模データ管理と最適化のすべての取り組みにとって不可欠です。ITDMは、効率的なプロセスと最先端のデータテクノロジーを組み合わせることで、企業運営のためにインサイトに富んだ戦略を策定しています。現在、ITリーダーの約44%がデータ分析のフレームワークツールを調査または試験導入しており、19%が事業部門や部門内で実稼働しています。最新のデータ分析のフレームワークを理解し、導入を成功させることは、競争優位に立とうとするすべての企業にとって極めて重要になります。

3. ビジネスプロセス管理とワークフロー自動化

一部の巨大テクノロジー企業で大規模なリストラが実施されているにもかかわらず、ほとんどの企業は依然として熟練したIT人材の採用と定着に苦勞しています。スキル不足が進行する中、ITリーダーはワークフローを自動化し、ビ

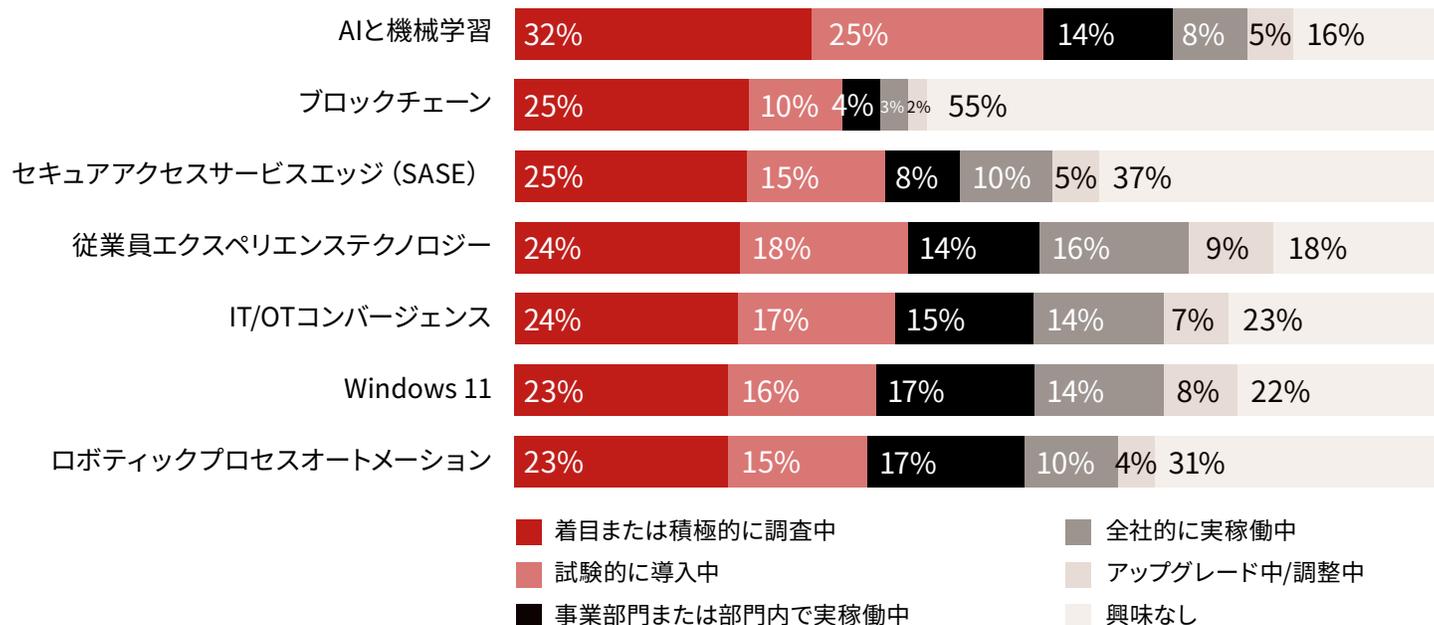
ジネスプロセスの効率化を図る方法を模索しています。したがって、回答者の43%が、組織内のビジネスプロセス管理とワークフロー自動化テクノロジーを積極的に調査または試験導入していることもうなずけます。ITDMの約5人に1人が、これらのツールを事業部門や部門内で実稼働させており、さらに20%はBPMを全社的に導入しています。

4. 従業員エクスペリエンステクノロジー

優秀な人材の採用が依然として難しい中、現行の従業員を定着させることがこれまで以上に重要になっています。そのため、企業はより多くの予算を優れた従業員エクスペリエンスを創出し、維持するためのツールに投資しています。

従業員エクスペリエンスツールやソフトウェアは、従業員の勤務場所に関係なく、仕事の割り当て、追跡、モニタリング、そして従業員の健康や全体的な満足度向上を支援します。ITDMの約42%が従業員エクスペリエンステクノロジーを調査または試験的に導入しており、さらに30%が部門内または全社に導入しています。

積極的に調査されている上位テクノロジー



5. IT/OTコンバージェンス

かつて業界内で物理的にサイロ化されていた運用技術 (OT) は、現在ではITシステムとの間で統合が進んでおり、IT/OTコンバージェンステクノロジーに対する需要が生まれています。

ITDMの約41%がIT/OTコンバージェンスを調査または試験的に導入しており、さらに29%が部門内または全社に導入しています。

IT/OTコンバージェンステクノロジーにより、環境要因、ワークフローの変化、または労働力の変動が製品の品質や生産に与える影響を事前に評価することができます。OTのセンサー搭載デバイスはデータの宝庫であり、それを収集・分析することで効率性やビジネスプロセスの向上に役立てることができます。また、インターネットに接続されたOT領域がサイバー攻撃に対して脆弱になるにつれて、コンバージェンス

ツールにより、ITとOTの両方の世界でサイバーセキュリティを改善し、統合させることもできます。

これら5つのツールにより、現在ほとんどのITDMで最も広く使用されている既存のテクノロジー、すなわちコラボレーションツール (68%)、ビジネスインテリジェンスと分析 (65%)、エンタープライズアプリ (ERP、CRM) (65%)、サイバーセキュリティの監視とフォレンジック (62%)、インフラストラクチャの統合と仮想化ツール (62%) に機能が追加されることが期待されます。

調査のご協力に感謝して、次の段階へ

最新のツールがすべて成功するわけではありません。IT意思決定者は、世の中で大きく期待されているテクノロジーの多くに依然として関心を持っていません。おそらく、その組織の市場セクターや企業規模が影響していると考えられます。これらのテクノロジーとして、ブロックチェーン (55%が興味なし)、拡張現実 (AR) または仮想現実 (VR) (55%が興味なし)、5G 対応デバイス (同41%)、エッジコンピューティング (同38%)、セキュアアクセスサービスエッジ (SASE) (同37%) などが挙げられます。

新興テクノロジーベンダーを評価に採用している手法

新興テクノロジーベンダーを評価する際に、ITDMは主に従来手法を用いています。大多数 (71%) は試験導入や製品デモを利用し、

新興テクノロジーベンダーの評価に採用する5つの方法

1. 試験導入と製品デモを実施する
2. 社外イベントやカンファレンスに参加する
3. 一部の同業者に話を聞く
4. 専門家によって書かれたレビューを参考にする
5. 専門チームを結成する

2023年における新しいテクノロジーの導入に関する最大の課題はスキルと人員

66%は社外イベントやカンファレンスに参加して、バーチャルや対面で情報を収集しています。回答者の半数は、ベンダーに関する知識を収集するために一部の同業者に話を聞き、41%は専門家によって書かれたレビューを参考にしています。一部の企業は製品やベンダーを評価する専門チームを結成しています。(38%)

しかし、新興テクノロジーの採用は、スキルや人員の問題によって失敗することがよくあります。ITDMの約半数は、適切なスキルセットがない (51%)、あるいは一般スタッフの不足 (50%) が原因で新しいテクノロジーの導入がうまくいかないと回答しています。この問題に対処するため、ほとんどの組織 (76%) が新しいテクノロジーを使いこなせるように既存の人材をスキルアップしたり、リスクリングすることでチーム全体のスキルセットを強化しています。また、フルタイムの従業員が見つければ採用する (41%) 企業もあれば、マネージドサービスプロバイダーを利用したり (32%)、単発の仕事を請け負うギグワーカーを雇用している (24%) 企業もあります。

これらのプロジェクトを妨げるその他の課題としては、予算不足 (40%)、IT部門とビジネスリーダーシップ間のコミュニ

ケーション不足 (32%)、進歩的でないIT文化 (28%) などが挙げられます。

IT/OTコンバージェンスツールを積極的に調査し、試験的に導入しています。

結論

差し迫った景気後退と、それがIT組織に影響を与えることが想定されるにもかかわらず、ITリーダーは今後12か月間でテクノロジー予算が着実に増加すると予想しており、予算の減少を予想しているのはわずか12%でした。

ITDMは、AIと機械学習、データ分析のフレームワーク、ビジネスプロセス管理とワークフロー自動化、従業員エクスペリエンステクノロジー、

IT支出の増加額トップ3は、サイバーセキュリティ、BI/分析ツール、データ分析のフレームワークです。新しいテクノロジーの導入に関する最大の課題は、適切なスキルの欠如と人材不足であることは予想どおりの結果でした。

これらの投資は、複数ベンダーの契約を一本化して経費を削減し、重要でないプロジェクトを減速させるなどの緊縮策とバランスを取りながら、不確実な経済状況の中で将来のビジネス運営を安定化させるのに役立つでしょう。

調査について

2023年CIOを対象としたテクノロジーに関する調査では、2023年1月に276名のIT意思決定者が回答したFoundryオンラインアンケートのデータが分析されました。調査回答者は全員、ITまたはセキュリティ分野の主要な製品およびサービスの購入プロセスに関与しています。回答者は、主に北米 (68%) の企業を代表しており、一部ヨーロッパ (25%) とアジア太平洋 (6%) の企業が含まれています。これらの企業の業界は、テクノロジー、金融サービス、製造、医療、サービスなど、多岐にわたっています。回答企業の平均従業員数は11,384名、平均売上高は59億8,000万ドルとなっています。

Foundryの最新情報

ニュースレター:メディアやマーケティングのトレンド、Foundry独自の調査結果、製品やイベントの情報をニュースレターで配信しています。ご登録は[FoundryCo.com/newsletter](https://foundryco.com/newsletter)で受け付けております。

Twitter : [@FoundryIDG](https://twitter.com/FoundryIDG)

LinkedIn : <https://www.linkedin.com/company/foundryidg/>

Website (グローバルサイト) : [FoundryCo.com](https://foundryco.com)

Website (日本サイト) : [FoundryCo.com/japan](https://foundryco.com/japan)

Foundry (ファウンドリー) のご案内

弊社Foundryのビジョンは、テクノロジーを正しく活用することで世界をより良い場所にすることです。なぜなら、テクノロジーが適切に使われることは、世の中の善のために良い力となると信じているからです。

Foundry (an IDG, Inc. company) は、信頼されるVoiceとして、知識やエンゲージメント、そしてテクノロジーやセキュリティに関する意思決定をする人たちのコミュニティとの関係を深める、品質の高いコンテンツを提供しています。こうしたコンテンツを配信する弊社メディアブランドであるCIO®, Computerworld®, CSO®, InfoWorld®, Macworld®, NetworkWorld®, PCWorld®そしてTech Hiveは、最も影響力のあるテックバイヤーを対象に、進化するテクノロジー業界の最新情報を提供しています。

こうした信頼されたブランドと、弊社のグローバル規模のデータインテリジェンスプラットフォームを使い、市場の動向から購買意欲を特定、活性化することでお客様の成功をサポート致します。また、マーケティングサービスとしては、ビデオ、モバイル、ソーシャル、デジタルなど、様々なメディアでマーケティングに特化したコンテンツも作成しています。

詳細は[FoundryCo.com](https://foundryco.com)にてご確認下さい。